

2025年 7月 29日

株式会社舞台ファーム

農業法人 舞台ファーム

神明ホールディングスとの業務提携を締結

農業の収益構造を変える「グリーンエネルギー」を活用 営農型ソーラーシェアリング施設での共同実証を実施

農業法人株式会社舞台ファーム（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：針生信夫、以下「舞台ファーム」）は、食料供給企業として「持続的な食と農のサプライチェーン」を構築しながら、「オープンプラットフォーム構想」として、地域農業者、自治体、他業種企業、学術組織などとの連携を積極的に実施し、食料の安定供給のために様々な事業を展開しています。

気候変動による野菜の生育不良や米価の異常高騰など、日本の農業は今、大きな転換期を迎えています。基幹的農業従事者の平均年齢はすでに 68 歳を超えており、農業労働力の高齢化、担い手不足が深刻さを増しています。加えて、耕地面積も年々減少の一途をたどっており、日本農業の「持続可能性」が強く問われる状況となっています。

舞台ファームは、この「オープンプラットフォーム構想」の一環として、このたび、「株式会社神明ホールディングス（本社：兵庫県神戸市、代表取締役社長：藤尾益雄、以下「神明 HD」）と業務提携を締結いたしました。

神明 HD は、「私たちはお米を通じて、素晴らしい日本の水田、文化を守り、おいしさと幸せを創造して、人々の明るい食生活に貢献します。」の企業理念のもと、祖業である米の卸売業にとどまらず、青果事業への参入や外食事業の展開等、アグリフードバリューチェーン構築に励み事業を展開しています。現在は農業の衰退スピードに歯止めをかけるべく新たな方針として「農業のプラットフォーム」を目指し、生産者が抱える課題に対する解決策を提案・提供し農業分野を強化する仕組み作りに取り組んでいます。

神明 HD と舞台ファームは本件業務連携を通じて、両社がこれまで培った知見と技術を結集し、日本農業が直面する課題解決のために、“食と農”の持続可能なシステムの構築に向けて、果敢に挑戦してまいります。

■「営農型ソーラーシェアリング」に関する協同事業

農業において太陽は「なくてはならないもの」であり、太陽光のエネルギーを利用してこそ、米や野菜などの農作物の生産が可能となります。農業は古来よりエネルギーの転換する営みであったと言えるでしょう。現代では、機械化、自動化などの技術革新が進むことで、生産性の向上を目指す「スマート農業」が加速しています。スマート農業の実現にはさまざまな機械や設備が必要であり、それに伴い「電力」の需要も一層高まっています。

舞台ファームでは、営農型ソーラーシェアリングを核に、農業とエネルギーを掛け合わせた「農エネ業」を提唱し、営農型ソーラーシェアリングを軸とした「グリーンエナジー事業」の推進に取り組んでいます。「農地」は、人の食料を生産する重要な位置付けであると同時に、ロボット・機械の食料である「電気エネルギー」も供給するものへとカタチを変えていきます。

現在、「美里グリーンベース」の南側水田に、日本最大級の営農型ソーラーシェアリング施設の設置を進めています。同施設を活用することで、美里グリーンベースで使用している電力の約 78%を太陽光発電で賄うことが可能となります。また同時に、EV ステーションを設置して周辺農家への電力供給・スマート農業推進を実施するほか、地震などの災害時には地域の方々へも電力を供給します。



＜営農型ソーラーシェアリング 事例＞



＜美里における営農型ソーラーシェアリング設置図＞

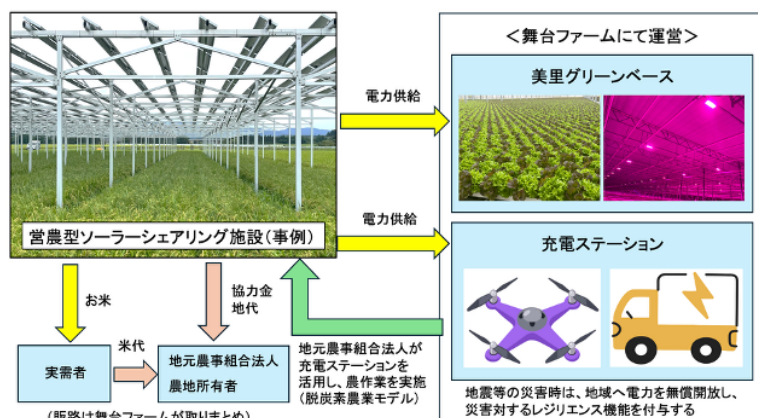
舞台ファームは、神明 HD が有する米に関する高い専門性や豊富な経験知などを活かし、同社の協力・支援のもと、営農型ソーラーシェアリング施設の実証に共同で取り組みます。共同実証で得られたノウハウや技術を基盤に「新たな営農モデル」を構築し、両社で全国へ展開していきます。

創出された電力の有効活用による農業所得の向上、ならびにスマート農業の推進による生産性の飛躍的向上を通じ、持続可能な農業への転換と農業分野の一層の活性化が期待されます。

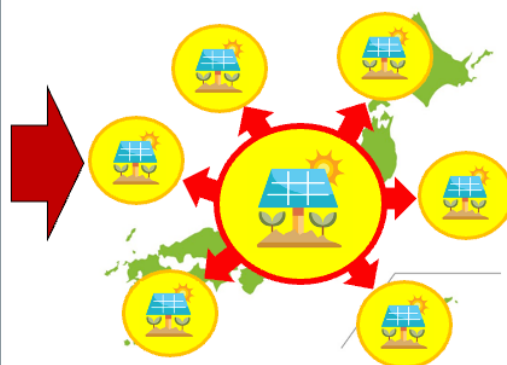
＜宮城県美里町 営農型ソーラーシェアリング施設 概要＞

- 実施場所： 宮城県美里町中埠（なかぞね）地域
- 取組面積： 約 3.9ha（39,000 m²）
- 耕作地： 水田（生產品目＝米）
- 工事予定： 2025 年 8 月下旬～9 月着工予定（2026 年 2 月完成、3 月通電開始予定）

＜営農型ソーラーシェアリング 美里モデル＞



両社で共同実証を行い、
モデルを全国へ拡大へ！



■その他の多様な取組みについて ～今後の取組み事項～

神明 HD および舞台ファームは、先述の営農型ソーラーシェアリング施設における共同実証にとどまらず、双方の知見や技術を最大限に融合させ、持続可能な“食と農”の実現に向けて、下記の内容に関しても、幅広く取組んでいきます。

＜その他の取組み事項＞

- ① 米の生産・安定供給に向けた取組み
- ② 施設栽培による安定供給の取組み
- ③ 農業人材の育成・派遣
- ④ 農業再生支援・事業継承支援
- ⑤ スマート農業の推進・普及

米の生産・安定供給
に向けた取組み



農業人材の
育成・派遣



スマート農業の
推進・普及



施設栽培による
安定供給の取組み



農業再生
事業継承支援



① 米の生産・安定供給に向けた取組み

温暖化によるコメの収量不足に端を発した米価の異常高騰などが話題となっています。

舞台ファームは、高温に強く、台風などでも倒れにくいなど耐倒伏性に優れ、多収穫品種である「にじのきらめき」（農研機構開発）の種籾を生産し、2026年1月より全国へ販売を進めています。

神明 HD は、グループ会社である株式会社神明育種研究所で品種の開発に取り組み、ふじゆたか・大粒ダイヤなどの品種を生産者へ提供しています。

双方の知見を融合することで、昨今の気象環境にも対応可能で、高品質かつ安定収量が見込める種子の提供や、安定した販路の確保を通じて、生産者の経営の安定化に貢献していきます。

② 施設栽培による安定供給の取組み

青果物においても、天候に起因する流通量の変動が一層顕著になってきています。

舞台ファームは、日本最大級のレタスの植物工場「美里グリーンベース」を有し、ハイブリッド土耕栽培を始め、独自の技術にて高品質なレタスを生産、安定供給を実現しています。

神明 HD は、グループ会社である東京シティ青果株式会社、シティ青果成田市場株式会社、東果大阪株式会社、大同印岡山大同青果株式会社の各社で青果流通事業を営んでおります。

両社の連携により、美里グリーンベースを軸とした全国展開を進めるとともに、神明グループの広域な流通ネットワークを活かし、青果物を安定的に消費者の皆さまへお届けする仕組みを構築します。

③ 農業人材の育成・派遣

日本農業においては、農業人口の減少や高齢化、担い手不足が喫緊の課題となっています。

舞台ファームでは、宮城県美里町や茨城県境町を始めとした地域において、農業経営者人材（グリーンカラー）の育成に取り組んでいるほか、美里グリーンベースのインド出身の工場長に代表される外国人人材の育成にも力を注いでいます。

神明 HD では、2023 年に新規就農者の育成を目的として「株式会社神明アグリイノベーション」を設立し、農産物の栽培技術にとどまらず、営業や経営管理に至るまでを担う次世代農業者の育成に取り組んでいます。

④ 農業再生支援・事業継承支援

農業の高齢化や担い手不足が深刻化する中、経営の継続が困難となる事例も増加しています。

舞台ファームは、「オープンプラットフォーム構想」のもと、多様なステークホルダーと共に、農業を中心としたサプライチェーンの高度化に取り組んできました。地域農業者と自治体と連携し様々な販路の開拓を通じ、新たな農業経営モデルの確立を進めています。

神明 HD では、「あかふじファーム菊川ラボ」において農業経営への参画や事業承継への支援に取り組むとともに、「あかふじファームイノベーションファンド」を通じて、規模拡大を目指す生産法人への資金支援を行うなど、生産者の経営を支える多面的な取り組みを推進してきました。

こうした両社の強みを活かし、経営改善や事業承継に課題を抱える生産者を支える「新たな支援体制」の構築を推進します。

⑤ スマート農業の推進・普及

生産者の高齢化や担い手の減少に加え、気候変動の激化により、従来の手法では農業経営の持続が困難な状況が続いています。収量の安定化、品質の確保、農作業の効率化といった課題への対応として、スマート農業やアグリテックの活用は今後さらに重要性を増すと考えられます。

こうした背景のもと、両社は営農型ソーラーシェアリング施設での共同実証を通じ、電力をキーとしたスマート農業の先進技術などの導入を検討していきます。持続可能かつ競争力のある農業の実現に向けて生産現場の改革と食糧生産の安定化に貢献していきます。

<業務提携締結当日の様子>

